

# 四川省チベット高原・花の旅

(2012年7月13日～21日) 中村康

‘わんりい’誌上、折に触れて掲載の「四姑娘山・写真だより」でお馴染みの四姑娘山自然保護区管理員の大川健三氏の案内で、毎年のように四川省に花見に出かけて、今年は6回目となった。何度、出かけても新たな花との出会いがあり、興味の尽きることはない。

8名の参加者のなかで中村康氏に今回の花旅の様子を紹介してもらった。  
(関根茂子)

四川省カンゼチベット自治州の高原の花を昨年が続いて訪問した。花心がなくともそれなりに興味深い。ここ、カンゼチベット自治州は元来はチベットのカム(康)地方の東部にあたり、それを切り分けて四川省に属させた州である。宿泊したのは州都・康定で、カム(康)を平定するとの意味をもつ。ここを拠点に3台の車に分乗し道路際の花々を愛でる。しかし、ここは高度4000m近くのところを訪れているので、高山病には用心して行動しなければならない。

## 【キノコ鍋】

康定は都会ではあるが、山の中の街で、朝市があり、たくさんのキノコが売られている。一夜キノコ鍋専門店です。15分間煮立ててから食べないと中毒の可能性あるとの注意書きがあったが、その注意を聞かばこそ、次々と煮立つそばから食べてしまい、待っている人の口には入らない。



朝市で売られている様々なキノコ



スケッチ：関根茂子



スケッチ：関根茂子



木格措(措はチベット語の湖の意味)

## 【木格措】

康定の北21kmの観光地。最近の中国観光地で多いのだが、入口でバスに乗り換えさせられ、目的地には直接はいけない。終点の木格措までひたすらバスで山道を登る。対岸に船で渡り花を見る。日曜日とあって大勢の中国人観光客と一緒にいる。しかし対岸まで来る人は少ない。たまたま日本語を習っているという学生が花のきれいな所を案内してくれた。

## 【折多峠】



折多峠で休むサイクリストたち

康定から30キロ西、高度4238m。州を横断しチベットのラサまで通じる国道上にある。この辺りは広くよく舗装されている。その急坂を夏休み中の学生が最新の自転車に乗り若さで登ってゆく。

## 【チベット人の村落】



チンゴー麦畑とチベット人村落

ミニヤコンカ山(7556m)が望める峠を目指し康定から南下したが、霧のため青いケシを見ただけで引き返した。車中から見たのチベット人村落はチンゴー麦(高所に強い裸麦の一種)を栽培し、桃源境のようなたたずまいを見せている。

帰途に車が泥にはまり、抜け出すのに1時間近くかかった。小型ワンボックスカーで悪路対策の牽引ロープもスコップも持たず、作業にも慣れていない。道具を傍の家から借り、電柱から針金をはがし牽引したが、切れてお手上げである。幸い、通りがかりの四駆のトヨタランドクルー

ザーの親切な若者にロープ牽引してもらい助かった。木格湖で出会った学生や、当地を観光ドライブする人など漢族の若者の変貌を実感した。一方、我々の若い運転手はチベット族で漢字が読めない人もいる。その格差に暗澹たる思いもする。

## 【双子の石塔】

康定の南方50kmの朋布西にあり、直径11m、高さ30m。非常に正確に作られ、16の面の幅は2.5cmと違ってない。塔は威信のために建設されたといわれるが、正確な用途は不明である。この種の石塔はチベット圏に多数存在する。以上で今回のトピックスを紹介したが、まだまだ面白いことが多そうな四川省チベット自治州の旅である。

(写真撮影：中村 康)



## 【旅で見た花々】

\* イシモチソウの仲間とランの仲間以外の写真は中村康の撮影によります。



トチナイソウの仲間



エーデルワイス



イシモチソウの仲間(撮影：大川健三)



ランの仲間(撮影：大川健三)



ジンチョウゲの仲間



サクラソウの仲間



シオガマの仲間